

# 廿日市市景況調査 (2018年10~12月)

◇平成17年11月の市町村合併後は、旧廿日市市(合併後の区域)の調査結果になります◇

## 全国の12月は、横ばい圏内の動き。先行きも不透明感から慎重な見方変わらず

12月の全産業合計の業況DIは、▲15.7と、前回から▲0.3ポイントのほぼ横ばい。建設業や設備投資に加え、自動車や産業用機械関連が堅調に推移する状況が続いているほか、インバウンドを含む冬の観光需要の増加を指摘する声も聞かれた。他方、人手不足の影響拡大や原材料費の上昇、根強い消費者の節約志向が引き続き中小企業のマインドに影響を及ぼしており、業況改善に向けた動きには足踏み状況が見られる。先行きについては、先行き見通しDIが▲15.1(今回比▲0.2ポイント)とほぼ横ばいを見込む。年末年始の商戦を契機とする個人消費拡大や、インバウンドを含めた観光需要拡大、生産・設備投資の堅調な推移への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れ、貿易摩擦など世界経済の不透明感、消費増税の影響を懸念する声も多く、中小企業の業況感にはほぼ横ばいで推移する見通し。

## 会議所管内の10~12月景況は2年ぶりに改善あるも、先行きは慎重なうごき

前年同期比では、全産業合計の総合業況DIが▲6.7と、前回調査(30年9月▲27.8)から大幅に改善した。

産業別の業況DIでは、製造業でポイントがプラスに転じており(▲27.8→9.1)大幅に改善している。卸小売業でもマイナス幅が25.5ポイント改善(▲30.8→▲5.3)している。建設業もマイナス幅が3.3ポイント改善(▲20.0→▲16.7)し、サービス業ではマイナス幅が5.6ポイント改善(▲27.8→▲22.2)しており、全業種で前回調査より改善が見られる。

向こう3ヵ月(1~3月)の先行き見通しでは、全産業合計の総合業況DIが▲22.2と前回調査(30年9月▲16.7)からマイナス幅が5.5ポイント増加した。

産業別のDI推移では、製造業で大幅にプラスに転じて(0→36.4)いるが、建設業ではマイナス幅が13.3ポイント増加(▲20.0→▲33.3)、卸小売業で13.7ポイント(▲23.1→▲36.8)増加となっており、飲食・サービス業は横ばい(▲11.1→▲11.1)という結果となった。

前回調査(7~9月期)では全国的に災害の影響が数値に表れていたが、今回調査では豪雨災害からの回復基調により数値が好転していると考えられる。

他方「原材料・燃料代などの仕入単価」「雇用人員の不足感」は依然として高い水準を維持している。

以下、産業別の各事業所から寄せられた、景気動向の要因や業界動向など。

【製造業】	新製品を投入して売上が増えた
【建設業】	新築は減少したがリフォーム工事が増加している 手持ち工事高の減少
【卸小売業】	人材確保が非常に困難になっている 需要に波がある。状況が読みにくい 少し景気が良くなったように思う
【飲食・サービス業】	・業務の話は多いが、協力会社の人手不足もあり仕事を断られることもあり受注拡大は厳しく難しい ・店内の設備工事による売り場縮小 ・夏の災害後の外食控え、支払い単価の減少がある

業種別景況概要	全国(12月)		廿日市 10~12月と先行き見通し									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲7.6	▲11.2	▲17.8	▲22.2	9.1	36.4	▲33.3	▲33.3	▲15.8	▲47.4	▲44.4	▲33.3
採算	▲14.4	▲15.1	▲11.1	▲26.7	9.1	0.0	▲33.3	▲33.3	▲10.5	▲36.8	▲22.2	▲33.3
仕入単価	▲39.6	▲35.2	▲37.8	▲37.8	▲45.5	▲54.5	▲50.0	▲50.0	▲31.6	▲26.3	▲33.3	▲33.3
雇用人員	25.8	26.1	17.8	20.0	18.2	18.2	16.7	0.0	15.8	21.1	22.2	33.3
業況	▲15.7	▲15.1	▲6.7	▲22.2	9.1	9.1	▲16.7	▲50.0	▲5.3	▲36.8	▲22.2	▲11.1

※ 全国調査は【日本商工会議所LOB0調査】をご参照ください

(対象169社 回答45社)

●DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断状況を表す。ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上など実数値の上昇や下降を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)  
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

特に好調	$50 \leq DI$
好調	$25 \leq DI < 50$
まあまあ	$0 \leq DI < 25$
不振	$\triangle 25 \leq DI < 0$
きわめて不振	$DI < \triangle 25$

●設備投資は？

※複数回答・無回答あり

10月~12月		7月~9月 見込み	
実施した	土地	2	1
	建物	1	2
	機械	5	4
	車両	3	3
	OA	5	1
	その他	2	0
	計	18	11
実施していない・しない		31	34

●当面の問題点は？

第1位	売上、需要の停滞	28.1 %
第2位	従業員、人材の確保難	16.2 %
第3位	販売単価の低下、上昇難	12.3 %
	材料費、仕入価格の上昇	12.3 %
第5位	消費者ニーズ変化への対応	9.5 %

※回答の「その他」はランク外扱い

景況DIの推移

● 全国 ● 甘日市 ● 県内

